

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090701956		
法人名	医療法人 ながら医院		
事業所名	グループホーム 月華 (月ユニット・華ユニット)		
所在地	〒812-0014 福岡県福岡市博多区比恵町12番21号 TEL 092-477-3123		
自己評価作成日	平成29年02月17日	評価結果確定日	平成29年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成29年03月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活ができるようにケアの個別性を重視し、ADLが維持できるよう支援している。また、月に2回理学療法士が訪問し、体操や身体機能を維持するための指導を行っている。昼間看護師が常勤し、専門的立場からの健康管理を徹底している。母体の医院との協力体制も整っており、緊急時など迅速に24時間体制で支援している。定期的な勉強会を行い、看取りを行う体制を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「月華」は、近隣に公園やスーパーがある利便性の良い場所に位置し、医療法人経営の2階建て2ユニット(定員18名)のグループホームである。季節の花が植えられた玄関を入ると、天窓から柔らかな陽射しが射し込む室内には、家族や利用者による手作りの品や季節の小物が飾られ、清掃の行き届いた、清潔でアットホームな環境の中で、利用者は穏やかに過ごしている。1階の地域交流スペースを開放し、毎週開催されるふれあいサロンに数名の利用者が参加したり、地域のボランティアや保育園児との交流も継続している。看護師を多く配置し、管理者を中心に、看護師と介護職員が協力し、重度化対応や看取りを行う体制を整え、母体医療法人との連携により、24時間安心の医療体制が整っている。重度化が進む中、利用者一人ひとりのADLの維持に努め、個々に合わせた柔軟な対応に真摯に取り組み、利用者の入居年数も長く、家族の安心と信頼に繋げている、グループホーム「月華」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11.12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に数カ所掲示している。全体会議の際に理念について話し合い、それに基づいたサービスができるように取り組みを行っている。各自の名札の裏にも理念を記載し遂行している。	ホームが目指す基本理念を、スタッフ室や見やすい場所数ヶ所に掲示し、職員の名札の裏に記載し、会議の場で確認する等して、理念の共有に努めている。職員は理念の意義や目的を理解し、利用者が住み慣れた所で、馴染みの人達と一緒にいつもの一日が送れるよう、楽しく笑いの絶えないグループホームを目指し、日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや町内会の清掃、近所の幼稚園の運動会に入居者と参加している。また、保育園児の慰問もある。	町内会に加入し、地域の夏祭りや清掃活動、幼稚園の運動会に地域の一員として参加している。また、1階の地域交流スペースを開放し、毎週行われるふれあいサロンに数名の利用者が参加し、地域の方と交流している。ボランティアの来訪や保育園児との交流は、利用者の大きな楽しみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎週行われている地域のサロンの会に参加している。ホームの行事にも定期的に参加してもらい、繋がりを持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの内容や認知症ケアについてなど意見交換を行ってサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、利用者2名、家族2名、地域代表2名の参加で年5回開催し、「災害時の対応について」、「成年後見制度について」、「認知症ケアについて」等、毎回議題を挙げて取り組んでいる。参加委員からの質問、意見、情報提供を受け、出された内容をサービスの向上に活かすよう努力している。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員の参加を要請し、年6回開催する事が望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営についてなど入居に関する事について行政担当者に電話連絡を取り相談をしている。	管理者は、疑問点の相談や事故等の報告を行政担当窓口に行い、情報交換している。行政や地域包括支援センターへ、運営推進会議への参加の呼び掛けが出来ておらず、今後の課題として取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室には、鍵をかけていない。各ユニットの玄関には、人感センサーを設置している。定期的に研修を行い拘束を行わないケアの話し合っている。	身体拘束に関する勉強会の中で、言葉や薬の抑制も含めた拘束が、利用者に与える影響について職員が理解し、禁止行為の具体的な事例を挙げて確認し、共通認識に努め、身体拘束をしないケアに努めている。また、各ユニットの玄関は日中は開放し、人感センサーによる確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について認識を持ち防止するために研修参加や勉強会を行っている。皮下出血や皮膚トラブルをおこしやすい方には、毎日ボディーチェックを行い不自然な傷がないか確認している。ケアに問題が発生していないか等毎月全体会議で話し合いを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を行い、制度を知る機会を作っている。認知症の方への必要性を理解し、活用できるようにパンフレットを準備している。	職員研修の中で、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。制度に関する資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請手続きについて説明し、関係機関に橋渡し出来る体制を整えている。家族会の中で、制度を活用している利用者の家族から話をしてもらう等、周知を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、わかりやすい言葉に置き換えて、ゆっくり丁寧にご家族が納得されるまで説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお支払いに来られた際に必ず声かけを行い意見や思いの表出に努めている。苦情や相談を受けた時は、苦情対策委員会で話し合いサービスの反映につなげている。	職員は、利用者の思いや意向を聞き出し、家族面会や行事参加の時に、利用者の暮らしぶり、健康状態を報告し、家族から意見や要望、心配な事を聴き取り、ホームの運営や、介護サービスに反映出来るように取り組んでいる。また、年1回家族会を開催し、ホームからの報告を行い、家族間の交流を図っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットで出た意見をまとめて全体会議で話し合い運営に反映させている。また、職員の個人面談を行い、意見を出す機会を作っている。	月1回ユニット毎の会議を行い、利用者一人ひとりのケアの方法やターミナルの反省等を話し合っている。各ユニットで出された意見をまとめて、毎月全体会議を行い、出された意見や要望は、ホーム運営や業務改善に活かせるように取り組んでいる。また、管理者は、職員の個人面談を定期的実施し、職員の意見や提案を聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートを取りその中から問題を抽出し、話し合いを行っている。自己評価票で自分を振り返り、向上心を持って働けるように資格取得の支援も行っている。会議などで業務や現場の環境などの報告を聞きながら、話し合いを行い、意見を取り入れ働きやすい環境を作っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用に関しては、年齢や経験の有無の制限を行っていない。面接後に職場体験を行い、本人の意思を確認した上で採用を決めている。	管理者は、職員の特技や能力を把握し、役割分担や勤務体制に配慮し、働きやすい職場環境を目指している。職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考え等を優先し、面接後に職場体験をして、採用を決定している。採用後は、新人研修やスキルアップ研修を実施し、介護技術の向上に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月、全体会議時に研修を行い、各自の考える機会を作っている。入居者の対応方法や接遇についてなど日々の業務に反映できるようにしている。	毎月の全体会議の中で、色々な資料を用いて人権について考える機会を設けている。利用者の人権を尊重する介護について職員間で話し合い、言葉かけや、声の大きさに注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアの実践を目指している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人の研修に参加している。スタッフ個人がテーマを決めて行う勉強会も行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修やグループホームネットワークの研修に参加している。情報を取り入れサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問した際にご本人と直接話を傾聴している。本人やご家族の要望などを聞きすこしでも安心して生活できるように関係づくりに努めている。CMやSWなどと連携を図り連携に情報収集を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学してもらった時に現在の状況を詳しく聞くようにしている。入居申し込み書にご家族の要望の記入欄を設けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在利用されているサービス内容を確認し、ホームで行うサービス内容についての説明を行っている。また、ショートステイを利用してもらい入居の時期の検討をしてもらっている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でできる事は、本人ができるように促し、一緒に協力して行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や外出などご家族と触れ合う時間を作っている。面会時は、必ず最近の様子を話してご家族と一緒に考えケアしていく事を伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人など行事や面会に来てもらい交流を継続させている。また、携帯電話の管理を行い、定期的に電話で話をしてもらっている。	入居時に、利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの関係や生活習慣を聴きとり、利用者の行きつけの場所での買い物や外食に出かける等、利用者が長年築いてきた人間関係や地域社会との関わりが継続出来るよう取り組んでいる。また、ホームで仲良くなった利用者同士の関係や、職員との信頼関係も、新しい馴染みの関係として大切にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格を考慮し座席を決めている。配膳や茶碗ふきなど入居者同士で協力して行えるように促している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も行事に参加してもらったり、電話相談を受け支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情や反応を観察し、家族との会話の中での思いや要望をくみ取り、意向に沿ったケアを行っている。	職員は日常の暮らしの中で、利用者の思いや意向を聴き取り、職員間で情報を共有し、実践に繋げている。また、意向の表出が難しい利用者についても、反応は必ずあると諦めずに、利用者の顔つき、体に力が入る等いつもと違う事に注目し、利用者の思いの汲み取りに努め、意向に沿えるよう支援に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用し生活背景の把握を行っている。ご家族にもわかる部分の記入をしてもらっている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今まで生活されてきた状況や今現在の状態を把握し、その人に応じた生活ができるように情報の共有を行っている。身体状況に何か変化がある場合は、ケアの見直しを行い、早期に対応している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、センター方式を活用して介護計画書を作成している。その人らしい生活ができるよう家族、スタッフ間で話し合いを行っている。	利用者や家族から意見や要望を聴き取り、担当者会議を開き、職員間で話し合い、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化や重度化に合わせ、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や身体状況の変化などスタッフ間で共有し、ケアに生かしている。実践した結果を話し合い介護計画に役立てている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の表情や反応、動きなどを見ながや家族の意向に柔軟に対応できるように体制を整えている。定期受診は、看護師が同行している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生ボランティアや園児との交流を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に主治医と緊急時利用の医療機関の確認を行っている。訪問診療や定期受診の支援を行い適切な医療が受けられるようにしている。	入居前に、利用者や家族の希望を聴き取り、かかりつけ医の受診をお願いしているが、家族が行けない時は、看護師が病院に同行し、結果を家族に報告している。母体が医療法人であるので、利用者への24時間の対応が可能で、看護師と介護職員が協力し、主治医と医療情報を共有しながら充実した医療連携体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて適切なケアが受けられるように看護職員が昼間常勤している。入居者の異常や変化は、看護職員に報告し、いつでも連絡がとれる体制を作っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、定期的に連絡をとり状態を把握している。退院前に病院を訪問し、SWや看護師に情報収集を行い適切なケアが行われるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際に重症化した場合の意向について話し合いを行っている。入居者の状態変化がみられた場合、その都度説明を行いケアの方針を確認している。	看護師を多く配置し、母体医療法人と連携を取りながら、重度化、終末期にも対応出来る体制を整えている。ターミナルケアについては、指針を基に、契約時に利用者、家族に説明し、理解を得ている。利用者の重度化に伴い、家族に対して細かな報告を行いながら、主治医も交えて方針を確認し、関係者で方針を共有して、本人、家族の希望と条件が合えば、ホームでの看取りの支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、実践できるように緊急時のマニュアルを作成している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回避難訓練を行っている。災害時のマニュアルを作成し勉強会を行っている。	年2回、日中、夜間を想定した避難訓練を実施し、2階の18人の利用者を、安全に避難誘導出来るように取り組んでいる。また、非常災害マニュアルを整備し、通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所を確認し、非常時に、職員が冷静に対応できるように努めている。携帯用担架を試したり、階段にマットレスや段ボールでスロープを作る等、色々と試しながら良い方法を検討している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や生活環境を把握し、人格を傷つけないように言動に気を配っている。声かけのタイミング、大きさや内容など個人に合わせた方法を行っている。	職員は、利用者の人格やプライバシーを尊重し、ホームでの暮らしが安心して楽しめるように支援している。言葉遣いや対応に注意し、利用者の個性を尊重した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、周知徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや訴えに耳を傾け、わかりやすい言葉で説明し本人が自己決定できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身状態や希望に応じ、入浴やレクリエーションを行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重し、洋服を選んでもらっている。行事や外出の際には、化粧を行っている。訪問美容を利用し、カットやパーマなど本人の希望にあわせて行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体状況や意欲に合わせて家事を促し、職員と一緒にしている。	メニューが豊富で栄養バランスのとれた配食サービスを利用し、利用者が交代でつぎ分けを行っている。また、食事の形態や味付け、量に注意し、利用者一人ひとりに応じた食事を提供している。重度化に伴い、介助、見守りが必要になり、ある程度の時間をゆとり取りながら、一人ひとりのペースで食事が出来るよう配慮している。また、アンケートを取って外食に出かけたり、ホットプレートを使ってのおやつ作り等、食べる事が楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて食事の形態を変えて提供している。水分摂取量の少ない方には、好みの飲み物を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアを行っている。利用者に応じて、ガーゼや口腔ケア用のブラシなどを使用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄パターンを把握している。その状態をみながら誘導を行っている。また、入居者の表情や動きなどを観察しながら、タイミングをみて声かけをしている。	トイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者の排泄チェック表を通して、排泄パターンや生活習慣を把握し、利用者の表情や仕草から察知して、タイミングを逃さないよう声掛けや誘導を行い、トイレでの自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間もトイレ誘導を行い、利用者の自信回復に繋がる排泄の支援とオムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように栄養バランスのよい食事を提供し、水分補給を行っている。腸の運動を促すために毎朝体操を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日は、決めているが本人の気分やタイミングに合わせて入浴できるように支援している。本人のペースに合わせゆっくり楽しめるように入浴剤を使用している。	入浴は利用者の希望を優先し、週2回から3回の支援に取り組んでいるが、利用者の体調や希望によっては、毎日入浴することも可能である。香りの良い入浴剤を使用して楽しんでもらい、利用者と職員がゆっくり話が出来大切な時間と捉え、コミュニケーションに努めている。また、入浴を拒否する利用者には、無理強いせず、清拭や足浴で対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣に応じて起床や食事の時間を変更している。その日の体調に応じてソファや居室で休息している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者別に内服の種類をわけたファイルを作成していつでも確認できるようになっている。嚥下状態に応じて粉碎にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の状態に合わせて家事や炊事などを一緒にを行い、役割作りを促している。個人が楽しめる趣味やレクリエーションの時間を作っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見やドライブなど年間の行事にご家族にも参加頂き一緒に過ごす時間を作っている。職員と一緒に近所のお店に買い物に行ったり外出支援も行っている。	気候の良い時期は、近隣の散歩や商店街での買い物、公園に出かけ、利用者の気分転換に繋げている。また、幼稚園の運動会や地域の行事に参加したり、花見やドライブ等に出掛け、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。また、買い物時には、少額のお金を利用者に預け、自分で清算して楽しんでもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には、少額所持してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の携帯電話を使用して定期的に友人とお話ができるように支援している。また、友人に出すハガキの宛名書きなどの支援も行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の色は、落ち着いた配色の物を利用している。温度、湿度の管理も行っている。花や壁の飾りつけを行い、季節感を出すようにしている。	2階建ての2階部分にあり、利用者が一日の大半を過ごすリビングルームには、季節毎の飾り物や家族の手作り作品、生花等を飾り、家庭的な雰囲気である。こまめに行なう清掃や換気により、利用者が気持ちよく過ごせるように配慮し、天窓からの柔らかな陽射しの中、利用者が安全に安心して暮らす事の出来る共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファ、畳を設けており、入居者が気に入った場所で過ごせるように空間作りを行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの物やご家族の写真などを置いて、落ち着いて過ごせるような環境にしている。掃除や換気なども毎日行い、心地よく生活できるようにしている。	利用者が自宅で使っていた筆筒や椅子、鏡台等、馴染みの家具や布団、テレビ等、身の回りの物や家族の写真等本人にとって大切な物を持ち込んでもらい、自宅と違和感のないように設置し、利用者が自分の部屋として、安心して暮らせるよう配慮している。また、清掃、換気に気をつけ、利用者や面会者が気持ちよく過ごせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「便所」「ゆ」などドアの色を変えて大きく表示している。立ち上がり安全に行えるようにベットのL字バーを設置している。また、トイレ内には、支援用手すりを設置している。		